

# 人手不足の建設現場に貢献

## 軽さと柔らかさで古河電工の「らくらくアルミケーブル」

ミニウム、絶縁被覆に柔軟性架橋ポリエチレンを採用したCVケーブル。質量は、従来のCVケーブルに比べ同サイズで約半分。通電容量も約30%の軽量化を実現している。

また、低温下でも剥ぎ取りやすい絶縁被覆、曲げやすさは従来のCVケーブルの約3倍などの特長を持つ。さらに、シースの色を青にし、従来のCVケーブルとの識別を容易にしている。同ケーブルは、すでに多くの現場で使用されており、ケーブルの運搬、布設作業、および端末処理作業の省力化に貢献している。また、圧倒的な軽さは作業者の安全確保にも寄与している。

古河電工のアルミ導体の建設用電力ケーブルが、国内各地の建設現場で作業の大幅な効率化に寄与している。その一例として、五洋建設が手がけた大阪・「ヨドバシ梅田」一体開発計画「ヨドバシ梅田タワー」が専門誌「近代建築」で紹介された。

同タワーで使用されたのは、古河電工およびグループ会社の古河電工産業電線（本社・東京都荒川区東日暮里、松本康一郎社長）と開発した、高機能型低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」。同ケーブルは、導体にアル

建設現場では人手不足や高齢化が深刻化しており、作業の省力化の必要性が一段と高まっている。従来、ビルやマンション、工場、商業施設の屋内配線で広く使用されてきた建設用電力ケーブル（CVケーブル）は、導体材料は主に銅が用いられており、重さや柔らかさの面で作業効率の改善が課題となっていた。

